

# 神仏習合の千年と神仏分離

国内最古の神社のひとつとされる諏訪大社。そこに起こった信仰は、諏訪の地に根つき、全国に広まっています。

その信仰は、時代のなかで形を変えながら浸透していきました。特に飛鳥時代に伝来した仏教は、日本にもともと存在していた自然信仰と結びついた神道にも影響を与えました。日本列島全体に広がる過程で、古代から中世にかけて神さまと仏さまを一体のものとして扱う「神仏習合」の信仰が確立。諏訪神社でも上社・下社にはそれぞれの神宮寺をはじめ、多くの寺院や僧房が立ち並ぶようになりました。

しかし、明治時代を迎えたとき、一体となっていた神仏の信仰は別々の道を歩むことになります。新政府の「神仏判然令」が引き金となり、各地で神仏分離が進展。諏訪でも鎌倉時代の五重塔をはじめ、貴重なお堂のほとんどが破却され、多くの仏像は人々の手によって諏訪地域の各寺院に移されました。1000年に及ぶ文化の礎が、わずか150年前に激変を遂げたのです。

このプロジェクトは、諏訪の地で育まれた神さまと仏さまが共存したかつての姿を振り返るものです。神仏分離の難を逃れ、周辺寺院で大切に祀られてきた諏訪大社ゆかりの仏像や仏具を一斉に公開。これまでなかなか調査が進められていなかったものや、秘仏とされるものも含め、皆さまにご覧いただき、かつては当たり前だった神さまと仏さまが同居する世界を振り返ります。

**諏訪大社について** P 完備 朱 四社個別

全国に一万社以上といわれる諏訪神社の総本社で、日本最古の神社の一つとされています。上社本宮・前宮、下社春宮・秋宮の四座からなり、各社殿の四隅に計十六本の御柱を曳き立てる「式年造営御柱大祭」で全国に知られます。御祭神は建御名方神、八坂刀売神。

①上社本宮：諏訪市中洲宮山1 ②上社前宮：茅野市宮川2030  
③下社秋宮：下諏訪町5828 ④下社春宮：下諏訪町193

※長野県 地域発 元気づくり支援金により(一社)大昔調査会制作

# 参加寺社・施設・公開仏像等一覧

施設名	公開仏像名など	旧所蔵
①昌福寺	不動明王立像	上社如法院
②真福寺	(本尊阿弥陀如来坐像、観音堂本尊如来形立像)	(協力公開)
③照光寺	千手観音菩薩立像及び両脇侍立像、不動明王立像 及び二童子立像、胎藏界大日如来坐像、不動明王立像(信玄不動)、仁王像	下社神宮寺 千手堂、本坊、三重塔、仁王門
④真秀寺	不動明王坐像、僧侶坐像(伝・清涼大師澄観)	上社如法院
⑤平福寺	阿弥陀如来坐像、十一面観音菩薩立像、不動明王立像 日光・月光菩薩立像、十二神将像、不動明王立像	秋宮三精寺 春宮観照寺
⑥慈雲寺	(木喰仏・阿弥陀如来立像)	(協力公開)
⑦温泉寺	石造宝塔(お鉄塔/上社本宮旧御神体)	上社本宮
⑧高國寺	仁王像、仁王門	上社上仁王門
⑨佛法紹隆寺	普賢菩薩騎象像(諏訪大明神本地仏)、文殊菩薩騎獅像 普賢菩薩騎象像、弘法大師坐像(清涼大師) 大日如来坐像 虚空蔵菩薩坐像(下社)、山門(上社)	上社普賢堂 上社如法院 上社蓮池院 上下社神宮寺
⑩小泉寺	本坊表門 (光明閣諏訪八十八力所仏特別公開)	下社神宮寺
⑪善光寺	不動明王立像、毘沙門天立像、仁王像(下仁王門)	上社普賢堂
⑫法華寺	観音菩薩立像	伝上社観音堂
⑬惣持院	十一面観音像懸仏 (立川流彫刻多数協力公開)	下社神宮寺
⑭真徳寺	(阿弥陀堂本尊阿弥陀如来坐像、如来形立像)	(協力公開)
⑮長円寺	薬師如来立像及び両脇侍立像	上社薬師堂
⑯虚空蔵堂	(虚空蔵菩薩立像)	(協力公開)
⑰高榮寺	聖観音菩薩坐像、弘法大師坐像、興教大師坐像、地藏菩薩坐像	上社神宮寺
⑱長泉寺	(法隆寺兼務住職・御朱印授与)	(協力)
⑲富士見町乙事公民館(法隆寺)	大日如来坐像、伝釈迦如来坐像、不動明王坐像 及び童子像、不動明王立像、毘沙門天立像、興教大師坐像	上社如法院
諏訪市博物館	五智如来坐像(萬福寺)(他に諏訪社遊楽図屏風:寄託)	上社五重塔
諏訪湖博物館・赤彦記念館	金銅薬師如来立像(春宮本地仏/宝光院蔵) (以下、下社神宮寺最後の住職末裔神山家蔵)	春宮観照寺 下社神宮寺
八劍神社	(女神形摩利支天坐像、弁財天坐像)	(協力公開)
手長神社	(高島藩諏訪氏崇敬社)	(協力)

諏訪大社上社 本宮(普賢堂・五重塔模型、神宮寺旧跡、宝物殿)・上社前宮  
諏訪大社下社 秋宮(神宮寺旧跡、宝物殿)・下社春宮(観照寺旧跡)

※公開内容は変わる場合があります。※公開日・時間はホームページでご確認ください。

信濃国一宮 諏訪上下社  
神宮寺由來仏像 齊公開

下社本地仏・千手観音のご印影  
本像は岡谷市照光寺の秘仏ですが、期間中特別公開となります。

上社本地仏・普賢菩薩像  
諏訪市仏法紹隆寺

## 諏訪神仏一斉公開マップ

公開期間: 2022年10月1日(土)~11月27日(日)

※公開場所によって休業日や公開時間が異なります。最新情報をホームページでご確認ください。

改訂3版

## 仏様がおわした諏訪神社

現在の諏訪大社は、明治に入るまで社域と同等以上の広さの寺域を伴っていました。当時の模様は数々の絵図や版画に残されており、中でも江戸時代前期の「諏訪社遊楽図屏風」(長野県宝/諏訪市博物館寄託)は、上社・下社とその周辺をそれぞれ一隻に描いた立派な資料です。期間中は諏訪市博物館で公開され、社殿や神宮寺、門前の街並みや人々のようすまで、克明に見て取ることができます。



▲上社遊楽図: 上社本宮の神宮寺は、鎌倉時代に建てられた五重塔を伴う大寺院で、真言宗普賢神変山と号しました。中心となっていたのは左から三番目の屏風に見える五重塔と、その手前の普賢堂で、普賢堂には本地仏がまつられていました。四番目の屏風の幣拝殿の奥には経文を取めた「お鉄塔」という石塔がまつられ、神官と同様に社僧も毎日のお勤めをしていたのです。



▲下社遊楽図: 左二枚の屏風には春宮と観照寺、慈雲寺が、下諏訪宿を挟んで右三枚には秋宮と三精寺、三重塔のある下社神宮寺が描かれています。下社神宮寺は真言宗海岸孤絶山と号し、本地仏は千手観音。秋宮の南側、諏訪湖に向けて広大な寺域があり、中山道と甲州街道の交わる地でもあったため多くの参詣者を集めました。今回は諏訪湖博物館の企画展で、伽藍配置が初めて明らかにされます。

## 諏訪社の美仏カタログ



照光寺 胎藏界大日如来坐像(下社三重塔/長野県宝)



照光寺 不動明王立像(信玄不動)(下社千手堂)



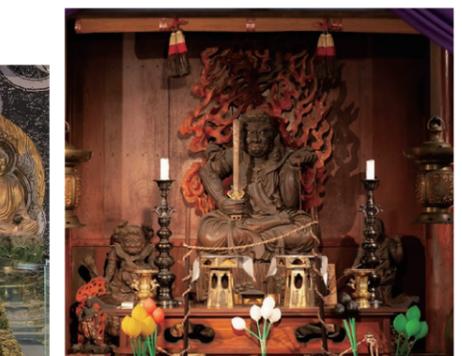
諏訪市博物館(萬福寺より寄託) 五智如来像(上社五重塔)



仏法紹隆寺 普賢菩薩騎象像(上社如法院本尊/長野県宝)



善光寺 不動明王立像(上社普賢堂/諏訪市指定文化財)



真秀寺 不動明王及び二童子坐像(上社如法院/岡谷市指定文化財)



平福寺 阿弥陀如来坐像(秋宮三精寺阿弥陀堂本尊/長野県宝)



平福寺 十一面観音菩薩立像(秋宮三精寺方丈本尊/岡谷市指定文化財)



長円寺 薬師如来立像(上社薬師堂本尊/茅野市指定文化財)

1 昌福寺 岡谷市川岸東4丁目16-5

『諏方大明神絵詞』を著した小坂(諏訪)円忠の小坂氏に縁が深い古寺。上社神宮寺由来の不動明王像、同画像を拝観できます。他に、寺宝として武田勝頼の安堵状(非公開)を蔵することでも知られます。勝頼の母、諏訪御料人の供養塔がある小坂観音院とも深い関係があります。公開は平日のみ、土日祝は要事前予約 0266-22-2982



P 20 朱 C

2 真福寺 岡谷市川岸上2丁目6-6

下社神宮寺系の寺院と住職の行き来があり、下社千手堂が天正3年に再建された際の棟札にも寺名がみられるなど、つながりの深いお寺として、貴重な仏像の協力公開を行います。本尊の阿弥陀如来は、室町時代かともいわれる端正な坐像。観音堂の本尊は、なぜか如来形の個性的な像で、木喰仏のような民間信仰の仏像として貴重です。公開は平日のみ 要事前予約 0266-23-6156



P 20 朱 C

3 照光寺 岡谷市本町2丁目6-43

下社神宮寺の末寺でしたが、創建の古さでは神宮寺に勝る可能性も秘めた古刹です。下社本地千手観音、三重塔本尊大日如来、ちょっとびっぴりな「信玄不動」ほか、下社由来の仏像多数。美しく繊細な千手観音像は、本来は60年に一度御開帳の秘仏。今回特別公開です。全日公開



P 90 朱 C

4 真秀寺 岡谷市長地小萩1丁目19-9

下社の摂社、小萩神社の別当寺でした。上社如法院由来の不動明王は、立川流三代富種の手になる大迫力の巨像です。下社由来の十六善神図、上社由来の涅槃図も必見。本堂内部も、下社神宮寺本坊を移築したものです。公開日は10/1・2・18・19、11/4・5・6・26・27のみ 非公開日の御朱印は平福寺で



P 10 朱 C

5 平福寺 岡谷市長地柴宮3丁目3-22

下社方の名門寺院で、秋宮三精寺、春宮親照寺から多くの仏像を引き継ぎました。中でも三精寺阿弥陀如来は等身大の堂々たる坐像で、慶長黄金期の傑作です。地元では三精寺由来の地藏菩薩「お日限(ひぎり)さま」で親しまれており、御開帳の縁日には門前が賑わいます。全日公開 10/23、11/24は縁日も開催



P 20 朱 C

6 慈雲寺 下諏訪町東町中606

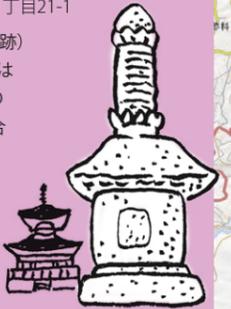
鎌倉時代、下社大祝金刺氏が名僧一山一寧を招いて創建した県内最古級の禅宗寺院。門前石段脇の修験道場、敬愛社宝光院が、春宮本地薬師如来像を引き取っています(諏訪湖博物館で公開)。神宮寺仏ではないですが、木喰作・阿弥陀如来立像を協力公開。苔むした参道から望む山門や池泉庭園など、境内の美しさは特筆ものです。全日公開(法要時見学不可)



P 50 朱

7 温泉寺 諏訪市湯の脇1丁目21-1

歴代諏訪藩主の廟所(国指定史跡)を守る高島藩の菩提寺で、本堂は高島城の能舞台を移築したものです。多宝塔の中には、神仏習合時代の上社本宮御神体、石造の「お鉄塔」が安置されています。御柱年のみの御開帳ですので、今回の拝観も貴重な機会です。お鉄塔開帳は10/15~30のみ 他は横窓から拝観可、10/15(法要)と10/30(御柱祭)は午後にも多宝塔開扉



P 65 朱 C

8 高國寺 諏訪市諏訪2丁目16-24

上社「上り仁王門」(旧材は一部のみ)と仁王像を今に伝えます。参加寺院唯一の日蓮宗で、神仏分離の混乱の中、下取りによって保全された一例です。神宮寺との直接の関係はありませんが、高島三代藩主忠晴の母、永高院によって再興された由緒正しいお寺です。全日公開



P 15 朱 C

諏訪湖博物館・赤彦記念館

下諏訪町西高木10616-111 旧春宮薬師堂本尊を中心に、下社神宮寺をテーマに企画展を開催。照光寺の本地仏によく似た厨子入りの小さな観音三尊像や東照大権現像など、下社神宮寺最後の住職の末裔である神山家に伝わった什宝を初公開。土日祝休日の翌日休館

P 30

諏訪市博物館

諏訪市中洲171-2 神仏習合時代の諏訪上下社境内を生き生きと描いた『遊楽図屏風』をメインに、企画展を開催。また常設展でも、上社五重塔の本尊だった五智如来像(萬福寺蔵)や上社神宮寺のジオラマなど、魅力的な展示を見ることができます。土日祝休日の翌日休館

P 60

9 佛法紹隆寺 諏訪市四賀桑原4373

上社ともっとも縁が深く、表紙を飾る上社本地仏普賢菩薩像をはじめ、引き取った非常に多くの仏像などを今回一斉公開します。莫大な数の古文書も、諏訪の仏教史を知る上で大変貴重なものです。また、神宮寺仏ではありませんが、運慶工房の作とみられる不動明王像の名作も公開されます。月曜(祝日の場合翌日)休館 10/22~11/13は無休 拝観料500円



P 30 朱 C

10 小泉寺 諏訪市中洲中金子3320-2

下社神宮寺本坊の表門が移築されているほか、上社如法院から徳川家位牌を伝えています。10月18~20日の午前中は、諏訪八十八カ所霊場の本尊がすべて祀られた光明閣の特別開帳。珍しい立像の五智如来などが拝観できます。周辺は水清く美しい古村です。御朱印受付は 平日午前中のみ 10/14、21、26は 道路工事で拝観不可



P 10 朱

11 善光寺 諏訪市湖南4890-1

善光寺如来が飯田の座光寺から現在の長野市に遷る途中、7年間ここに留まったという伝承をもつ「諏訪善光寺」です。上社本地普賢菩薩の脇侍だったという毘沙門天と不動明王、「下り仁王門」の仁王像を伝えています。いずれも等身大の堂々たる中世仏像です。10月の平日のみ公開 11月是非公開(境内参拝は常時可能)



P 10 朱 C

12 法華寺 諏訪市中洲神宮寺856

上社神宮寺の旧地に現存する唯一の寺院です。明治初年に廃寺になりましたが、しばらくして復興されました。釈迦堂由来の三尊像は、鎌倉の銘を持つ泉室でしたが、平成11年7月の火災で惜しくも焼失。しかし、今回の調査で再確認された、観音堂由来と伝わる観音菩薩像が公開されます。全日公開(法要時拝観不可)



P 20 朱

13 惣持院 茅野市塚原2丁目8-2

当初下社由来とされた薬師如来の懸仏と、下社神宮寺由来であることが明確になった十一面観音像懸仏を公開。隣接する白岩観音堂は、寺社建築で名高い立川流初代富棟のデビュー作で、県宝指定。その縁もあり、先代住職の立川流彫刻の貴重なコレクションも公開。必見です。全日公開(法要時拝観不可) 拝観料300円



P 5 朱

14 真徳寺 茅野市豊平下古田6629

神仏分離の際に上社薬師堂の移転の地になりましたが実現していません。「格院」という、上社如法院、下社親照寺と並ぶ格式の寺院でした。今回は一斉公開にあわせ、通常非公開の阿弥陀如来坐像(阿弥陀堂本尊/茅野市指定文化財)を特別公開。ほかに、鎌倉初期の銘をもつ一木造の古仏も興味深い存在です。全日公開(法要時見学不可)



P 20 朱

15 長円寺 茅野市玉川六山11373

「御柱街道」沿いに建ち、高島二代藩主忠恒が開いた六山新田村を守るお寺です。上社薬師堂の日本尊(鎌倉時代)を伝えています。本来の脇侍がどうかわかりませんが、激しく朽損した2体の一木彫像も謎めています。境内の百仏百体観音石仏群も素晴らしい出来で、仏像好きは必見です。公開は10/22~11/6のみ(法要時見学不可) 御朱印は全日受付



P 40 朱 C

16 虚空蔵堂 原村2320-1

御射山は原山さまともいい、諏訪社の山宮ともいべき存在。その本地仏・虚空蔵菩薩は、御射山祭で重視されていました。上社から原村の御射山社へと向かう神輿は多くの小社に立ち寄りますが、今も八ツ手虚空蔵堂に立ち寄りて祝詞を上げ、神仏習合の遺風を今に伝えています。虚空蔵菩薩像などを特別公開。土曜日を中心に不定期公開 10/15、22、29、11/5、19、27



P 12

17 高榮寺 富士見町立沢120

高原の村で古き時代の趣を残す、美しいお寺です。上社神宮寺由来と伝える仏像を複数受け継いでいます。端正な聖観音、保存の良い地藏菩薩など。弘法大師、興教大師の両大師像は、江戸末期、近代の影響が入り始めた像様が注目されます。10/1~10は全日公開 10/15以降は土日祝日のみ 拝観料300円



P 20 朱

18 長泉寺 富士見町落合瀬沢新田12098

諏訪と甲斐の境界近く、合戦の伝説を残す古村、瀬沢の里に位置します。下記、同じ富士見町の法隆寺とともに、上社如法院の末寺でした。縁あって、現在、長泉寺の住職が法隆寺を兼務しています。全日御朱印授与

P 30 朱

19 法隆寺 公開は富士見町乙事区役所=乙事5187 如法院の末寺だったため、同寺から多くの仏像等を引き継ぎました。寺としては観音堂を残すのみですが、大日如来、釈迦如来、不動明王等の尊像は、隣の乙事公民館で大切に守られています。拝観は公民館にて、御朱印は長泉寺でいただけます。平日のみ公開、土日祝休(11/5は公開)

P 30